

○ ダイオウ(大黄)



photo by H. Zell CC-BY-SA,
from Wikimedia Commons

語源

「大黄」とは、「形が大きく、黄色い根茎を持つ植物という意味」だと考えられる(根にはアントラキノン誘導体を含んでおり、黄色く見えるため)。また、ダイオウ属 *Rheum* は、ギリシャ語のレーオン「大黄」から。レーオンはスキタイ人の用いたボルガ河の古名 Rha に由来すると考えられており、この河畔にダイオウが多く見られたとする説がある。もしくはギリシャ語のレウマ「流れ」、つまり下剤としての働きに言及してリンネが命名したとも考えられる。他にもペルシャ語起源説など諸説ある。

基原

Rheum palmatum ショウヨウダイオウ
Rheum tanguticum タンゲートダイオウ
Rheum officinale ヤクヨウダイオウ(=ダイオウ)
Rheum coreanum チョウセンダイオウ
 又はそれらの種間雑種
 タデ科 多年草



薬用部分

根茎
 大黄はその薬効が激しいため「將軍」という別名もあるが、四川省産を「川軍(せんぐん)」、生のものを「生軍(しょうぐん)」、酒と混ぜて加熱し乾燥したものを「酒軍(しゅぐん)」という。

産地

中国

主な成分

ジアントロン誘導体(センノシドA~F)、アントラキノン誘導体(クリソファノール、エモジン、アロエエモジンなど)、ナフタリン誘導体、タンニン類(ラタンニンI、IIなど)、スチルベン誘導体(ラポンチシン、デオキシラポンチシンなど)を含有する。

主な薬効

通便、清熱瀉火、活血化癥の作用があり、熱性疾患、興奮症状、癥血、腹部腫瘤、無月経に使用される。

代表的処方

漢方では、緩下、また駆癥血剤として用いられてきた。

【大黄甘草湯】

ダイオウカンゾウトウ
 常習便秘、食後すぐに嘔吐するものを治す。
 (処方内容) 大黄/甘草

【桂枝加芍薬 大黄湯】

ケイシカシャクヤクダイオウトウ
 腹が張って、腹痛があり、便秘、しづり腹のあるものに用いる。
 (処方内容) 桂枝/生姜/芍薬/大棗/甘草/大黄

文献報告

【瀉下作用】

The influence of rhein 8-O- β -D-glucopyranoside on the purgative action of sennoside A from Rhubarb in mice

Biol. Pharm. Bull, 2012, 35, 2204-8

【抗癥血 抗血小板・抗凝固作用】

Chrysophanol-8-O-glucoside, an anthraquinone derivative in Rhubarb, has antiplatelet and anticoagulant activities

J. Pharmacol. Sci, 2012, 118, 245-54

※参考文献：「日本薬局方」「生薬単」「和漢薬の事典」「漢方のくすりの事典」「牧野和漢薬草大図鑑」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
 TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562
 URL: www.fukudaryu.co.jp